

登蓮法師集

霞

西あそり春の空とあもりのうらも雲よりあまるとは

櫻

桜花ち梨あへ後の雨とあしけおるあまはまゝ人すな

落花隨風

櫻とくさくさ山に風吹かうもあまの志質とくは

曉時鳥

あつたあももあまの郭公あけあまを鳴まゝかん

納涼

暮夜の月をみれば秋の月とぞ思ふ

水色晚風

秋波の如くは葉も風も霞もさよふ

暮夜月

月なき秋の月をみれば秋の月とぞ思ふ

草花

花の色もあも秋の月とぞ思ふ

朝遇野徑

朝の露もあも秋の月とぞ思ふ

月照落葉

雨とあも秋の月とぞ思ふ

月前懐旧

諸君もあも秋の月とぞ思ふ

旅宿月

故里とあも秋の月とぞ思ふ

刑部もあも秋の月とぞ思ふ

秋風もあも秋の月とぞ思ふ

母もあも秋の月とぞ思ふ

山寺もあも秋の月とぞ思ふ

花もあも秋の月とぞ思ふ

かゝる夜むすこい宿をよとほえのけし露を秋の夕暮

九月盡

あもりの小田はあもりよの晴雨のさかひんすま

深夜時雨

小夜はさる終てわさる若國の思ひもえ物事をかた

旅宿聖

とほまうらぶの〜終の海をうらぶ〜おとけの雲のしほ

恋

枝の片葉はあゝの後のまかゝるまのま〜と社を終

君も〜運まの我も忘る〜けきあゝ〜まぬ〜〜〜

海を越え旅者

みよあゝの磯はさる終〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

正實不滅度

世中れ人のあゝ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

海沿晩吟

あもり島志のさゝと待りた涼〜〜〜〜〜〜〜〜

海上晩望

おみあゝあまのの沖と〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

書

む〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

晴日あり葉末よりあり馬の霞の風あり後や

山海空布也

まゝとて人の心もよみし事あり老人の心も

古堂蓮花の葉つる心も水も少く後や

海空布也

買ふ心あり



書類從卷第二百六十七

